

相模大野駅周辺商店会連合会は、構成する4つの商店街がそれぞれ独自のイベントを開催しています。北口商店会の「ハロウィンフェスティバル」、相模大野銀座通り商店街の「みんなの文化祭」、女子大通り商工振興会の「カレーフェスティバル」、南新町商店街の「鶴の恩返し」など、工夫を凝らした手作りのイベントが盛りだくさん。さらに連合会でも「アートクラフト市」などを開催。地域の行政や団体を巻き込んだ実行委員会形式で開催する「相模大野もんじえ祭」は、2日間で10万人を集める大イベントに成長しました。連合会会長で南新町商店街振興組合理事長の岩井大輔さんは「コロナが明けて商店のみんなも地域のお客さんも盛り上がっています」と言い切ります。

—直近のイベントでは「さがみおの

ハロウィンフェスティバル2023」が10月29日に開催されました。

「昨年は自粛気味の小規模開催でしたが、今年は5000人の完全事前登録の子供たちに、相模大野駅周辺の15のチェックポイントでお菓子を渡しました。南新町商店街も相模大野駅南口広場で初めてチェックポイントを設け、来場した子供たちの笑顔いっぱい相模大野ハロウィンフェスティバルを楽しみました。この1年間で相模大野駅周辺が一番に変わった日でしたね」

—商店街の会員店舗数はどのように推移していますか。

「南新町商店街を例にとると、最盛期の70店舗に対し、現在は50店舗ほどですが、一度40店舗まで減少しこの3年で増えてきています。新しく加入してくるお店は、若い方が開業した飲食店が多いですね。新規店は商店街を挙げて応援します」

—どんな応援を？

「まずは食べに行つてあげます(笑)。

この秋に加入した『やる茶』さんは、大手居酒屋チェーンの相模大野の支店の店長をやっていた方で、コロナで支店がなくなつた後、自分で居酒屋を開業して、元の名前をもじつた店名にしています。こういうお店を応援して、商店街に加入したメリットを感じて欲しいと思っています」

—ご自身も商店街連合会の会長としてはお若いんですね。

「私だけでなく4商店街全てのトップが50歳前後です。この10年で先輩方が引退して、私たちの世代が引き継ぎました。相模大野の街全体でも、4年前に大規模百貨店が閉店する『伊勢丹ショック』がありました。あと2年でその跡地の再開発が完了し、商業施設やタワーマンションでにぎわいが戻るのを期待しています。相模大野は間違いなく人口も増えますね」

—たくさんのイベントは商店街や商

## 新規加入で 店舗数も増加

コロナ明けて商店街はこれから！

相模大野駅周辺商店会連合会 会長  
相模大野南新町商店街振興組合 理事長

岩井 大輔さん



「12月25日のゴスペルライブは、昨年3年ぶりに復活したクリスマスイベントで、駅からデッキでつながるショッピングモール『ポーノ相模大野』の広場で開催します。かつて相模大野は駅周辺(商業・交通の核)・ポーノ周辺(魅力づくりの核)・伊勢丹周辺(商業・文化の核)の『三核構造』だと言われました。これからは新しい街の新しい形の商店街を考えていきたいです」

—これからの注目イベントは。

業の振興にとどまらず、街全体の価値を上げる効果を発揮しています。

「私は南新町商店街で不動産の仕事をしています。相模大野は分譲マンション